

高知県立 埋蔵文化財センター



— 10年のあゆみと発掘調査 —

2001.12

(財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター

目次

あいさつ	1
埋蔵文化財センターの概要と沿革	2
高知県の遺跡と発掘調査	8
埋蔵文化財センターの活動	17



■ あいさつ

高知県埋蔵文化財センターは、平成3年4月に高知県条例及び高知県教育委員会規則により設置されました。同時に財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターも設置され、県からの委託により県立埋蔵文化財センターの管理運営を行ってまいりました。

当センターは、県教育委員会が行ってまいりました発掘調査と整理作業を受け継ぎながら新たな受託事業に取り組んできました。この間高速道路や国道バイパス、高知空港拡張等の大規模調査を中心として、県内各地での緊急調査や市町村における発掘調査の指導も実施してまいりました。施設面においては、センター設立以降2回の国庫補助事業として、新たに本館・南館・収蔵庫が建築され、展示・研修・収蔵機能についても拡充することができました。埋蔵文化財の発掘調査とともに調査資料の保管・管理並びに広報・普及事業についても機能を発揮できるようになったと考えています。

発掘調査は高速道路や空港拡張等の大規模調査も山場を越え、今まで充分ではなかった広報・普及・教育活動を課題として推進していきます。その実践として平成1年度から「出前考古学教室」として学校現場へ出かけ、遺跡の保護と考古学についての授業を行っています。同時に、県立美術館を会場として平成11・12年度に展示会を開催したところ、合計1万2千人余りの入場者があり、埋蔵文化財への関心の高さを知ることができました。

今後は国体等にあわせて来高される方も多くなると考えられます。当センターにおいて、発掘調査によって明らかになった土佐の歴史と風土を、県民の皆様をはじめとし、県外の多くの方々にも紹介できるよう、より充実した展示や講演会を催し、広く皆様の期待にそえる施設となるよう努力を重ねていく所存であります。

職員一同、さらなる精進に努め高知県の文化振興に寄与できればと考えておりますので、より一層のご理解とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成14年3月

財団法人 高知県文化財団埋蔵文化財センター
所 長 門 田 伍 朗

埋蔵文化財センターの概要と沿革

設置の主旨

高知県は、南に太平洋を臨み、北には緑豊かな四国山地の山々が連なっています。そして山々の間には四万十川をはじめとする清流が流れ、豊かな自然を育んでいます。この大地には、高知県の歴史を作り上げた多くの人々の生活の跡が、数多くの遺跡として残されています。

これらの遺跡を埋蔵文化財として保護し、後世に文化遺産として残して行くために高知県立埋蔵文化財センターが設置され、その管理運営を行うために（財）高知県文化財団埋蔵文化財センターが設立されました。

高知県立埋蔵文化財センターと（財）高知県文化財団埋蔵文化財センターは一体となり、発掘調査等の活動を通じて、埋蔵文化財の保護と普及を図り、地域文化の振興に寄与することを目的としています。

業務の内容

埋蔵文化財の発掘調査に関すること

埋蔵文化財についての調査・研究に関すること

出土品等の埋蔵文化財関連資料の保管・管理に関すること

埋蔵文化財に関する資料の展示・公開等の普及・活用に関すること

埋蔵文化財センターの管理・運営に関すること

その他、埋蔵文化財センター設置目的を達成するために必要な業務

組織

高知県立埋蔵文化財センター

↓ 管理運営・発掘調査業務委託（県教育委員会）

財団法人 高知県文化財団埋蔵文化財センター

理事会〔理事長〕

財団本部〔専務理事〕

総務課（次長兼課長） 事務職員

所長

調査課（調査課長） 調査第1～5班（班長） 調査員

施設

施設の位置

高知県立埋蔵文化財センターは、県内最大の平野である高知平野の中央部に位置しています。

埋蔵文化財センターの北方には、土佐国府跡・土佐国分寺跡・岡豊城跡などの土佐の古代と中世を中心とする遺跡が所在しており、南方には高知県を代表する弥生集落である田村遺跡群や中世、土佐国守護代の居館とされる田村城館跡なども存在しています。

このように、高知県における埋蔵文化財の発掘調査や土佐の歴史を語るうえでは、恰好の地に建設されており、埋蔵文化財保護の拠点として大いに活用されることが期待されます。



遺跡の宝庫 高知平野

施設の概要

埋蔵文化財センターの施設は、本館・収蔵庫・北館・南館の4棟の建物で構成されています。本館には展示室・研修室などの普及活動エリアと特別収蔵庫や図書及び写真等の保管室、事務室、調査員室が配置されています。北館と南館の2階には整理作業室が置かれ、南館1階と収蔵庫では出土品の保管管理が行われています。



高知県立埋蔵文化財センター施設配置図

施設

所在地 高知県南国市篠原 1437- 1

敷地面積 4,203㎡

建物構造 本館・北館・南館・・・重量鉄骨構造 2階建

収蔵庫・・・重量鉄骨構造平屋建（3層積層収蔵棚）

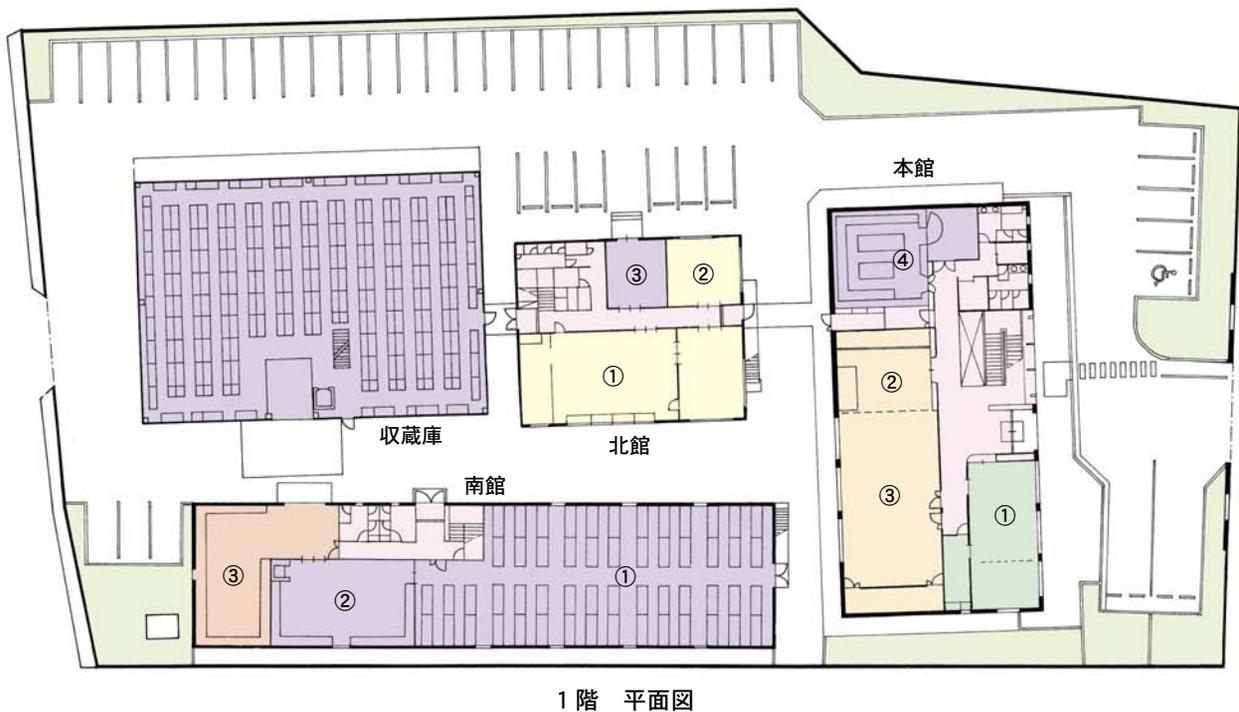
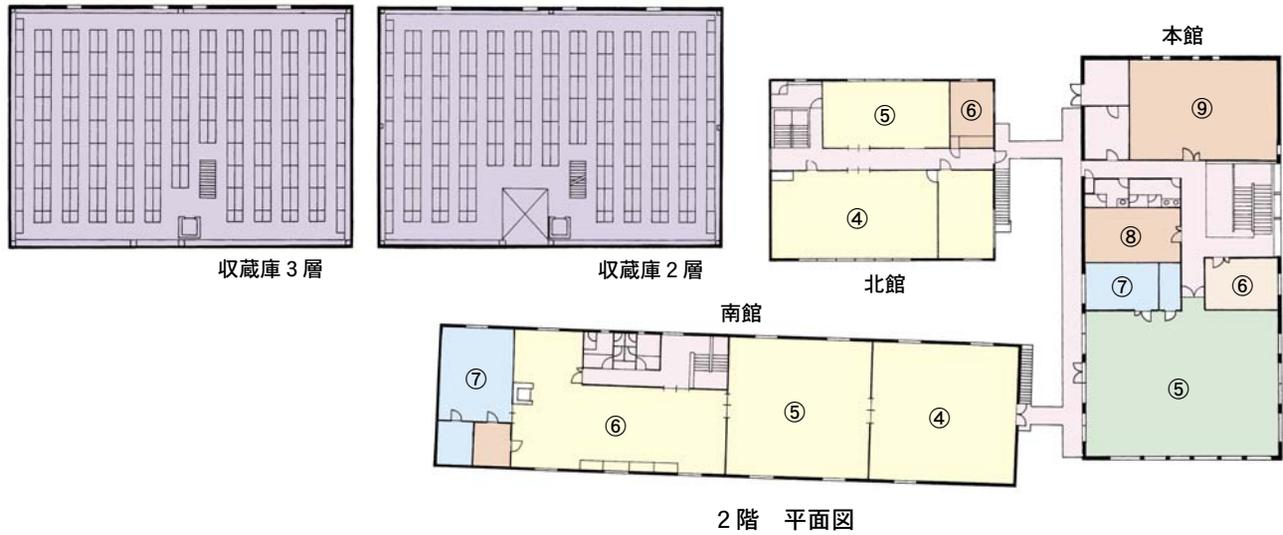
建築面積 2,073.65㎡

（本館 617.02㎡ 北館 263.12㎡ 南館 574.11㎡ 収蔵庫 619.40㎡）

延床面積 4,073.54㎡

（本館 1,037.11㎡ 北館 518.40㎡ 南館 1,045.92㎡ 収蔵庫 1,472.11㎡）

事業費 650,644千円（本館・北館・南館・収蔵庫を含む）





玄関ホール



図書・図面保管室



展示室



特別収蔵庫



研修室



収蔵庫

各館面積一覧

本館 1 階		本館 2 階	
室名	面積 (㎡)	室名	面積 (㎡)
①事務室・所長室	83.82	⑤調査員室	194.38
②展示室	51.63	⑥会議室	25.18
③研修室	131.43	⑦情報管理室	30.38
④特別収蔵庫	78.28	⑧写真保管室	38.38
玄関ホール他	173.88	⑨図書・図面保管室	100.44
		階段・通路他	129.31

収蔵庫	面積 (㎡)
1 層	528.60
2 層	462.48
3 層	481.03

北館 1 階		北館 2 階	
室名	面積 (㎡)	室名	面積 (㎡)
①洗浄整理室	129.60	④整理作業室 2	129.60
②整理作業室 1	32.40	⑤整理作業室 3	55.89
③仮収蔵庫	25.92	⑥休養室	19.44
階段・通路他	71.28	階段・通路他	54.27

南館 1 階		南館 2 階	
室名	面積 (㎡)	室名	面積 (㎡)
①復元収蔵庫	303.89	④整理作業室 1	131.10
②仮収蔵庫	81.03	⑤整理作業室 2	131.10
③機材庫	92.39	⑥洗浄整理室	143.83
階段・通路他	46.45	⑦撮影室	56.10
		階段・通路・倉庫	60.03

業 務

埋蔵文化財センターの仕事の中心となるのは発掘調査です。県内各地の遺跡について、各種の開発事業などで遺跡が壊されるような場合には、工事の前に発掘調査を行い、写真や図面で記録を残します。出土品はセンターで整理作業を行い、報告書を作成します。発掘中の現地説明会や展示会、出前考古学教室などを通じて調査の成果を見ていただき、埋蔵文化財保護の推進に努めています。



竪穴住居跡の掘り下げ
順番に上から少しずつ掘っていきます。



土器の取り上げ
写真などを撮ってから慎重に取り上げます。



測量と図面の作成
掘り終わったら、図面で記録します。



土器の水洗
土器の泥をていねいに洗い流します。



土器の接合
たくさんの破片をパズルのように接合します。



土器の実測
接合された土器を測って、図面を作成します。

発掘調査

整理作業

報告書の完成
現地調査から整理作業を終了して、遺跡が記録に残されます。▶

見学や現地説明会
発掘調査について多くの人に知っていただくために見学会や説明会を行います。



授業と展示▶
火おこし体験も授業中に行われました。



◀ 出前考古学教室
県下の小学校を対象として行われています。

調査成果の活用

沿革

埋蔵文化財センターは平成3年度に設置されましたが、それ以前にも県教育委員会による発掘調査が行われており、埋蔵文化財センターの前身として整理作業所が置かれていました。当初は高知東工業高等学校の寄宿舍を借り受け作業所としていましたが順次、プレハブ建物等により施設の改善が図られました。埋蔵文化財センター設置以後は、事業量の増加に伴い調査員の増員及び組織体制の強化と、同時に国庫補助事業等により施設の整備も行われています。

- 昭和55年 県教育委員会により高知空港拡張整備事業に伴う田村遺跡群の発掘調査が開始される。
- 昭和58年 田村遺跡群の現地調査が終了し、整理作業のため高知東工業高等学校の寄宿舍2棟を整理作業所とする。
- 昭和61年 田村遺跡群の調査を終了し、県教育委員会文化振興課に埋蔵文化財班が新たに置かれる。同時にプレハブ3棟を増築し、篠原整理作業所として開設される。
- 昭和63年 寄宿舍1棟をプレハブ収蔵庫に建て替える。

- 平成2年 (財)高知県文化財団発足。埋蔵文化財センター開設準備室開設・これに伴い寄宿舍1棟を新規に本館(現北館)として建て替える。
- 平成3年 高知県立埋蔵文化財センター及び(財)高知県文化財団埋蔵文化財センターが設置される。
- 平成5年 事業量の増加及び調査員増員に対応するために、平成4・5年度国庫補助事業として新たに南館を建設(それまでのプレハブ作業所は撤去)。
- 平成8年 門扉等の周辺整備が行われる。高知空港の再拡張に伴う田村遺跡群の2次調査が開始される。また、高速道路、中村宿毛道路、土佐市バイパス等道路関連踏査も開始され、事業量、人員ともに最大規模となっていく。センター施設狭隘のため現場調査事務所を設置し、対応する。
- 平成13年 大規模調査終了時期を迎え、現場調査事務所撤去を念頭においた埋蔵文化財センター施設の増新築が平成12・13年度国庫補助事業として行われる。展示・研修室や特別収蔵庫も確保され、広報・普及活動を含めて新たな出発となる。

高知県の遺跡と発掘調査

平成3年度に埋蔵文化財センターが設置されてから10年が経過しました。この間、県内の発掘調査は、旧石器時代から近世に至るまで各時代の遺跡が対象となっており、土佐の歴史の具体像が明らかとなってきました。ここでは、高知県の遺跡の発掘調査成果を時代を追って紹介します。

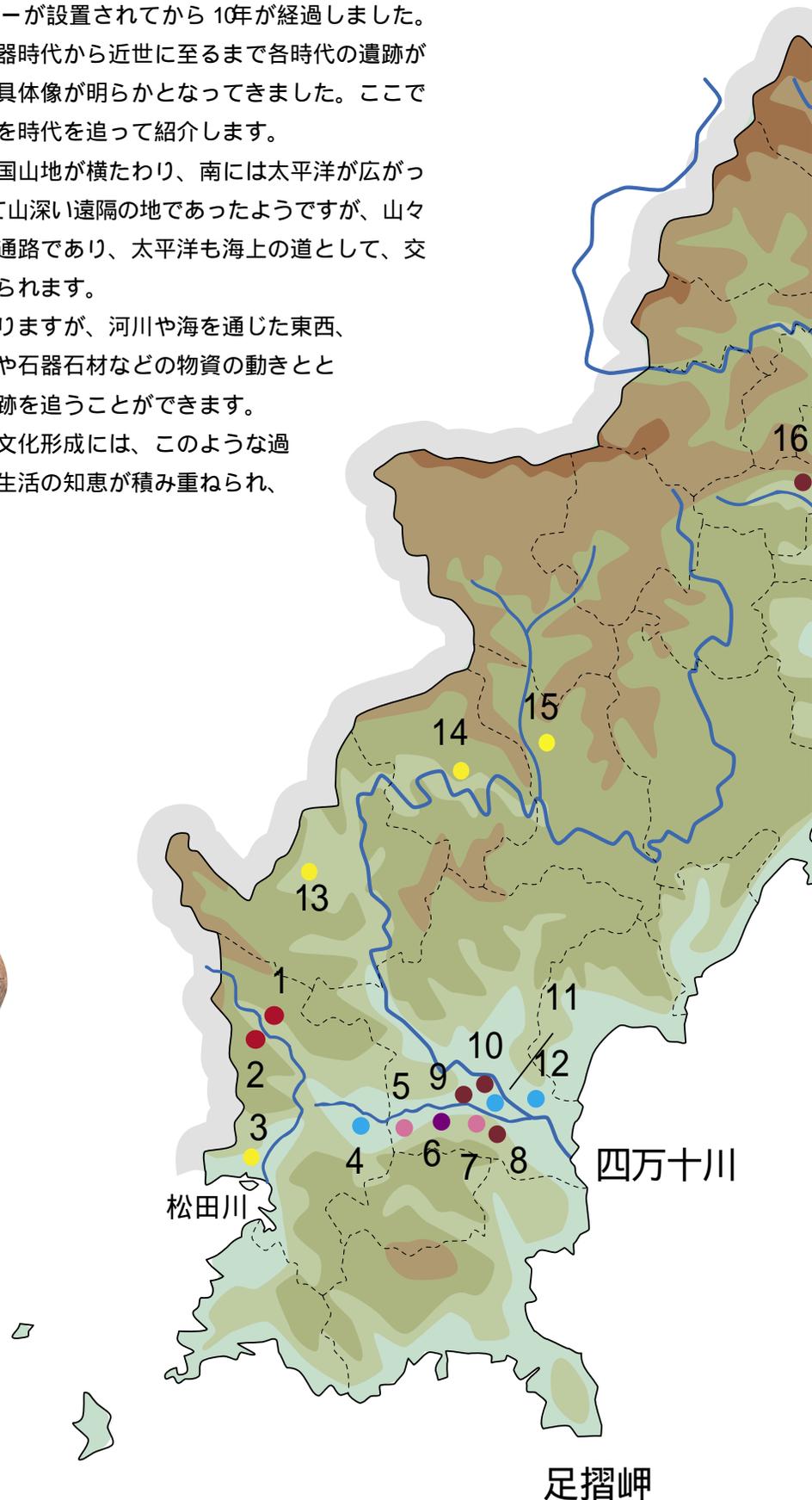
高知県は東西に長く、北には四国山地が横たわり、南には太平洋が広がっています。古代には遠流の国として山深い遠隔の地であったようですが、山々の間を流れる河川は古くからの交通路であり、太平洋も海上の道として、交流の大きなルートであったと考えられます。

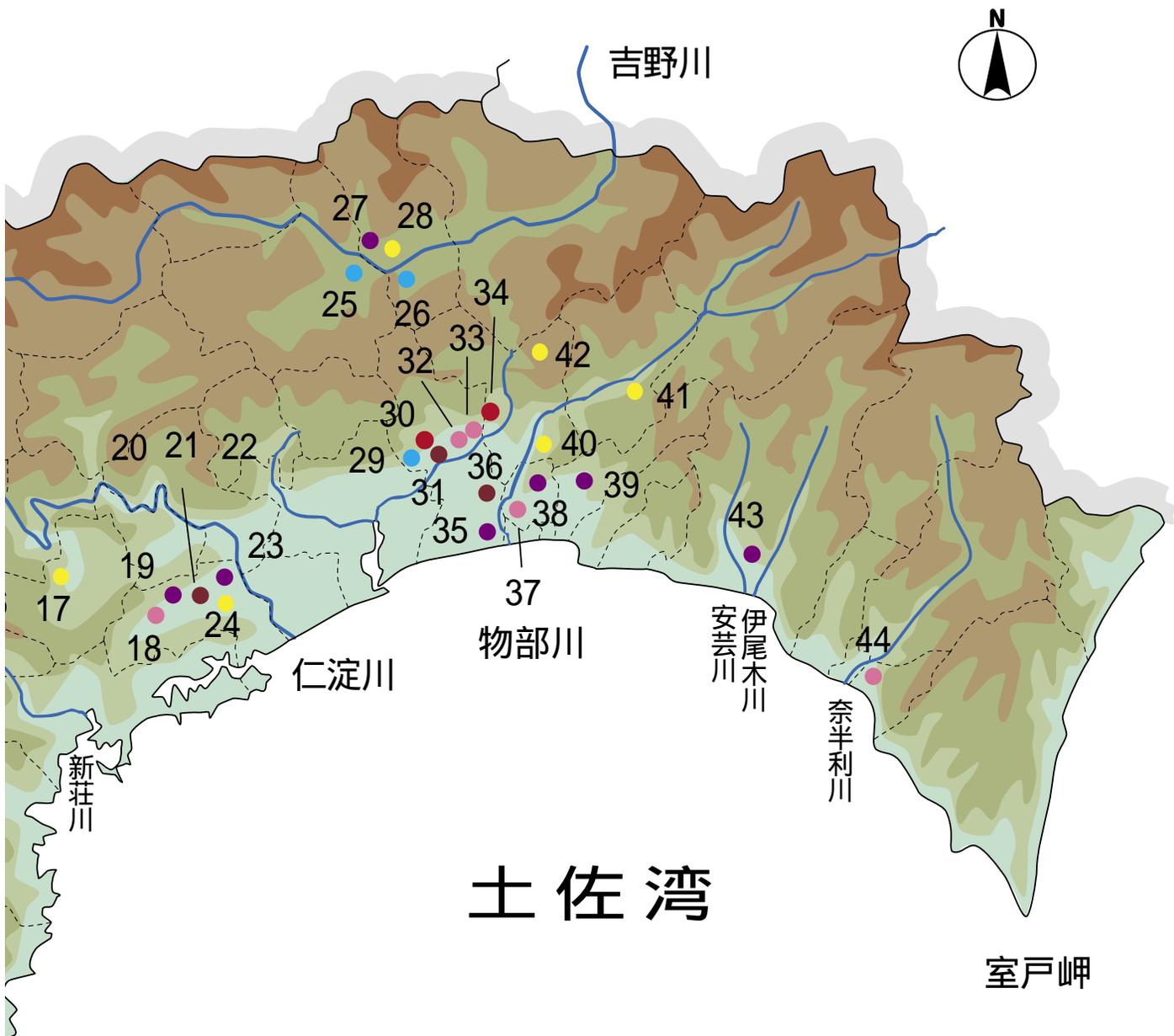
このように高知県は山国ではありますが、河川や海を通じた東西、南北地域との関係が見られ、土器や石器石材などの物資の動きとともに、当時の人々の文化と交流の跡を追うことができます。

高知県の風土に根ざした土佐の文化形成には、このような過去からの交流と自然を相手とした生活の知恵が積み重ねられ、創造されたものと考えられます。



田村遺跡群 大型壺
(弥生時代)





旧石器時代

- 1 楠山遺跡
- 2 池ノ上遺跡
- 3 宿毛貝塚
- 4 高岡山古墳群
- 5 神ヶ谷窯跡
- 6 西ノ谷遺跡
- 7 風指遺跡
- 8 アノノ遺跡
- 9 船戸遺跡
- 10 扇城跡
- 11 具同中山遺跡群

縄文時代

- 12 古津賀遺跡群
- 13 大宮・宮崎遺跡
- 14 十川駄場崎遺跡
- 15 木屋ヶ内遺跡
- 16 姫野々城跡
- 17 不動ヶ岩屋洞穴遺跡
- 18 西鴨地遺跡
- 19 北高田遺跡
- 20 林口遺跡
- 21 光永・岡ノ下遺跡
- 22 天神遺跡

弥生時代

- 23 天崎遺跡
- 24 居徳遺跡群
- 25 田畠遺跡
- 26 永田遺跡
- 27 銀杏ノ木遺跡
- 28 松ノ木遺跡
- 29 長畝古墳群
- 30 奥谷南遺跡
- 31 岡豊城跡
- 32 土佐国分寺跡
- 33 土佐国府跡

古墳時代

古代

中世

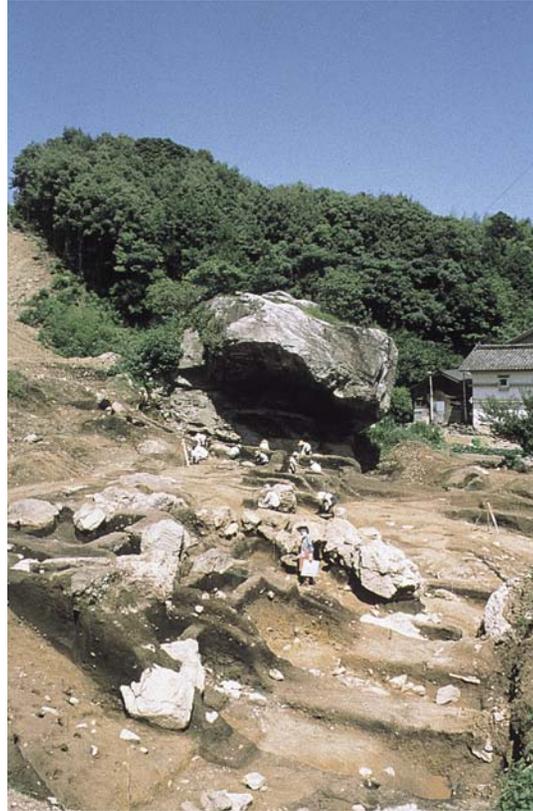
- 34 新改西谷遺跡
- 35 田村遺跡群
- 36 岩村土居城跡
- 37 下ノ坪遺跡
- 38 本村遺跡
- 39 下分遠崎遺跡
- 40 龍河洞洞穴遺跡
- 41 美良布遺跡
- 42 飼古屋岩陰遺跡
- 43 清水寺岡遺跡
- 44 コゴロク廃寺跡

旧石器時代



旧石器時代は、人類が道具を使い始めてから約13,000年前までの土器作りがまだ行われていない非常に長い時代です。土器作りがまだ行われていないので発掘調査の出土品は石器に限られています。当時の気候は氷河時代であり、気温も低く、海面の低下により日本列島は大陸と陸続きになっていました。自然環境も寒冷化により針葉樹林帯が広がっており、動物相も絶滅種であるナウマン象やオオツノジカなどがいたようです。当時の人々はこれらの大型動物を狩猟の対象としてハンターの生活を行っていたと考えられます。

高知県では、これまで旧石器時代の遺跡は非常に少数でしたが、近年、高速道路建設に伴う南国市の奥谷南遺跡や土佐山田町の新改西谷遺跡、宿毛市の池ノ上・楠山遺跡などからナイフ形石器や細石刃等が発見されています。使われる石材は、中央部ではチャート、西部では頁岩と在地の石材が中心です。石器の形も瀬戸内側とは違っており、紀伊半島や南九州との関連性も考えられ、太平洋の黒潮に沿った文化の流れも見えてきそうです。



奥谷南遺跡の岩陰



奥谷南遺跡の細石核と細石刃



池ノ上遺跡のナイフ形石器

縄文時代



氷河期の終了とともに温暖化が進み、石器に加えて土器が作られるようになり、縄文時代の幕開けとなります。縄文時代は約10,000年に及ぶ長い時代ですが、土器作りとともに弓矢の使用、定住生活によるムラの出現など、環境の変化に応じた画期的な飛躍が行われています。当時の生活はシカ・イノシシなどの狩猟、ドングリなど木の実や山菜の採集、サケ・マスなどを対象とした漁撈を中心として、一部には豆類や粟の栽培なども行われており、自然の恵み豊かな暮らしであったようです。

高知県では西南部の四万十川流域を中心に数多くの縄文時代の遺跡が発見されていますが、最近では吉野川流域や仁淀川、物部川の平野部においても縄文時代後期から晩期の遺跡の発掘調査が行われています。なかでも仁淀川右岸の居徳遺跡群では縄文時代晩期の土偶や木胎漆器、鍬、そして東北地方の土器なども出土しており、縄文人たちの精神生活や地域間の文化交流について物語る貴重な資料となっています。



居徳遺跡群の大洞式土器（東北地方）



居徳遺跡群の土偶



居徳遺跡群の木胎漆器

弥生時代



弥生時代は稲作を中心とし、大陸から鉄器や青銅器などの新しい文化が伝わった時代です。それまでの縄文時代は狩猟、採集、漁撈を生活の基盤として、自然の中にとけ込んで暮らしていた時代と言えます。これに対し弥生時代は、水田を切り開き、自然を克服して安定した生活を発展させた時代です。この画期的な変化の中心になったのは、朝鮮半島から伝わってきた新たな米作りの技術と文化です。しかし、最近の発掘調査によれば、縄文時代晩期の本格的な水田跡も発見されており、稲作文化を受け入れる素地はすでに縄文時代晩期には完成されていたと考えられます。居徳遺跡群出土の縄文時代晩期の鍬などもこれを物語る資料のひとつと言えるでしょう。



田村遺跡群の竪穴住居跡

高知県の弥生時代は、南国市の田村遺跡群から始まります。田村遺跡群は高知県最大の集落遺跡であり、弥生時代前期から後期前半まで継続する拠点集落です。竪穴住居跡 400棟をはじめとし多量の土器や石器も出土しています。また、田村遺跡群以外にも県内各地に多数の集落が成立し、ムラからクニへと発展する様子をうかがい知ることができます。



絵画土器



田村遺跡群

田村遺跡群の大溝

古墳時代



長畝古墳群

古墳時代は、死者のために壮大な墓を造った時代です。新たにクニから国家への統合が行われました。各地域では有力豪族の首長墓として前方後円墳が造られ、古墳時代後期になると有力者の家族墓として数多くの古墳が全国で造られています。また、朝鮮半島からは新しい焼き物である須恵器が伝わるなど、大きな技術革新が行われています。

高知県では残念ながら前方後円墳はほとんど確認されていませんが、高知市から土佐山田町にかけての山麓部では横穴式石室を持つ後期古墳が多数発見されています。また、四万十川や仁淀川の下流域の遺跡では河川で行われたお祭りの跡が発見されています。これらの遺跡の発掘調査では多量の須恵器や土師器、勾玉や土製模造品などが出土しており、当時の祭祀の様子を知ることができます。



具同中山遺跡群の祭祀遺物



居徳遺跡群の祭祀跡



具同中山遺跡群の須恵器

古 代



古代は飛鳥・奈良・平安時代にあたり、律令制度による中央集権国家が誕生した時代です。畿内の朝廷を中心として、各地には国や郡の役所が置かれました。また、租・庸・調などの税金も課せられ、全国に条里制による地割りが行われました。

高知県は土佐国として、南国市に土佐国府や土佐国分寺が置かれました。土佐国府跡の発掘調査では、硯や「官」と書かれた墨書土器、緑釉陶器などが出土しています。また、野市町の下ノ坪遺跡では整然と並ぶ建物群が発見され、全国的にも出土例の少ない四仙



土佐国府跡の墨書土器



下ノ坪遺跡の四仙騎獣八稜鏡

騎獣八稜鏡も出土しています。さらに田村遺跡群や曾我遺跡、具同中山遺跡群における古代の建物群の存在は、県内各地の郡衙などの地方官衙や荘園の存在を想定させます。そして、香長平野に残る碁盤の目状の地割りは、古代の建物と同じ方向性を持っており、古代の条里地割りが現代まで継承されたものと考えられ、現在の地形そのものが遺跡とも言えるでしょう。



田村遺跡群の古代建物群

香長平野には一辺が約100mの碁盤の目状の水田が広がっています。この方形地割りは古代の条里制による地割りを残していると考えられます。古代の建物群は1町四方の区画の中に建てられており、建物と地割りは同じ方向を持っています。

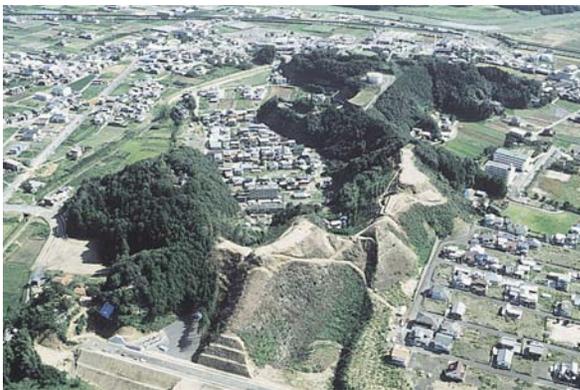
中世

鎌倉時代から室町時代を経て戦国時代までの約40年間は中世であり、公家を中心とする時代から武士の時代へと移り変わります。古代や中世においては、残された文献を中心に歴史が語られてきましたが、中世遺跡の発掘調査が行われることによって、文献だけでは分からなかった地域や庶民の歴史がよみがえって来ました。

高知県では、田村城館跡周辺の方形館跡や山城の発掘調査が多く行われています。室町時代、土佐の守護代であった細川氏を中心と



田村遺跡群の方形館跡



扇城跡

する体制から戦国の時代となり、群雄割拠の中から長宗我部氏が土佐を統一し、四国制覇を成し遂げる歴史の動きを遺跡の中から読みとることができます。

また、土器や陶磁器などの出土遺物からは、地域の権力と文物交易や日本国の中における土佐の姿も見えてきます。城跡の調査からは戦国期における戦いや勢力の移り変わりも知ることができ、そこに暮らした庶民の姿も浮き上がってきます。



天神遺跡の青磁碗



具同中山遺跡群の漆椀



船戸遺跡の呪符



具同中山遺跡群の土師器鍋



林口遺跡の下駄



林口遺跡の蝙蝠扇

(かわほりおうぎ)

近 世

近世、江戸時代になると徳川幕藩体制の下、各国に近世城郭が築城され、城下町が造られます。この町並みや集落は現代に引き継がれており、現在の高知市などになっています。近世考古学が本格的に開始されたのは、東京や大阪の再開発に伴う調査が着手された20年ほど前からです。江戸時代の文献は数多く残されていますが発掘調査が行われてみると、実際に使われた日用品などが多量に出土し、当時の生活を詳細に調べることができるようになりました。出土した考古資料は近世社会の解明を大いに進め、新しい近世の姿が見えてきています。

高知県における近世遺跡では、国史跡である高知城跡をはじめとして、安芸市の五藤家屋敷跡、中村市の山内家関連遺跡などの近世城郭と城下町の調査が行われています。高知城跡では桐紋瓦などの近世城郭成立の重要な手がかりとなる遺物の出土があり、裁判所改



高知城跡の桐紋瓦

築の調査では城内の屋敷跡も確認されています。また、南国市の陣山遺跡や小籠遺跡では農村集落の調査も行われています。土佐の近世陶磁器としては尾戸焼や能茶山焼について生産と流通の調査が進められており、土佐の近世の姿を具

体的に見ることができるようになってきました。



土佐中村一条氏遺跡の尾戸焼



小籠遺跡の能茶山焼



高知城跡の発掘調査

埋蔵文化財センターの活動

埋蔵文化財センター設立以降、県内各地での発掘調査が行われ、これに合わせて施設と組織体制の整備も進み、現在の姿となっています。ここではセンター設立以前の姿とその後の埋蔵文化財センターの活動を紹介します。

埋蔵文化財センター設立以前

埋蔵文化財センターが設置される以前は、県教育委員会において埋蔵文化財保護行政の一環として発掘調査も直接実施されていました。先にも述べましたように、昭和55年度から開始された高知空港拡張整備事業に伴う田村遺跡群の発掘調査が高知県における大規模調査の始まりであり、以後の埋蔵文化財保護行政の発展へと結びつく契機でした。昭和60年度には田村遺跡群の調査が終了し、翌年の昭和61年度には新たに埋蔵文化財班が設置され、本格的な取り組みが開始されました。最初の大きな事業として遺跡詳細分布調査が10年計画で行われました。その結果、県内の遺跡はそれまでの約2倍の2400ヶ所が確認され、以後の埋蔵文化財保護の基礎となっています。また、中筋川河川改修に伴う調査が継続的に開始されたほか、土佐国府跡、岡豊城跡などが重要遺跡として継続調査されました。また、県下の市町村に埋蔵文化財専門調査員が皆無であったことから、市町村についても県教育委員会からの職員派遣により発掘調査が行われていました。当時は、数少ない調査員が一年中県内を駆け回って開発との調整を行い、その足で発掘現場に駆けつける状況でした。さらに夜には帰ってからの事務処理が待っているなど激務でしたが、高知県の埋蔵文化財を守るためにと、調査員一同意気盛んでした。



篠原整理作業所時代（1987年）

埋蔵文化財センター設置に向けて

昭和から平成へと元号も変わり、当時のバブル景気を受けて県内においても開発が増加の一途をたどり、調査体制・人員的に限度を迎え、調査員の増員等が検討されるようになりました。また、その頃に高知県立歴史民俗資料館や高知県立美術館の建設も行われており、開館時における体制の検討も教育委員会内で行われ、埋蔵文化財発掘調査についても同時に財



祝センター本館完成（1999年）

団化による対応が浮上してきました。平成2年度には（財）高知県文化財団が設立され、歴史民俗資料館、美術館とともに埋蔵文化財センターについても高知県立埋蔵文化財センターを設置することによりその管理運営を（財）高知県文化財団に委託することになりました。そして、平成3年4月には県立埋蔵文化財センターと財団法人の埋蔵文化財センターが開設されました。

平成3年度

- 4月に埋蔵文化財センター開設。新築された本館が新鮮に映る。
- 県と教員からの派遣職員と財団専門職員で事業が開始される。初年度であるため何をするにしても協議しながらであり、事業の立ち上げは大変であった。
- ◆受託調査16件・調査員派遣調査18件。
- ★具同中山遺跡群の発掘調査報告会として中村市中央公民館で展示・講演会を行う。
- ★歴史民俗資料館企画展「土佐を掘る第1回－発掘された遺跡展－」共催。



埋蔵文化財センター開設



センター業務開始



具同中山遺跡群報告会

平成4年度

- 2年目を迎え、今後予想される調査量増加に対して財団専門職員2名と教員派遣4名増員となる。
- ◆受託調査11件・調査員派遣調査23件。
- ◆中村宿毛高規格道路建設に伴う調査が開始され、平成13年度現在も継続中。
- ◆柳田遺跡では県下初の古墳時代の木器まとめて出土。
- ◆派遣調査による伏原大塚古墳や芳原城跡で大きな成果あり。
- ★歴史民俗資料館企画展「土佐を掘る第2回－土佐の戦国時代を掘る－」共催。



柳田遺跡の琴柱



伏原大塚古墳の円筒埴輪



センターでの整理作業

- センターの体制強化が行われ、専任の所長、総務課長、調査課長が配置される。
- 施設整備も行われ、新たに南館が完成する。整理作業及び収蔵庫が拡大し職員一同大いに喜ぶ。
- 体制強化のため調査員も教員派遣1名増加。
- ◆受託調査16件・調査員派遣調査24件。
- ◆中村宿毛道路関連の船戸遺跡で縄文時代と中世の良好な資料出土。
- ★船戸遺跡の調査成果を受け、中村市中央公民館で展示会「四万十の歴史を掘る」を開催。
- ★歴史民俗資料館企画展「土佐を掘る第3回－土佐の古墳を掘る－」共催。



新たに完成した南館



展示会「四万十の歴史を掘る」

- 本年度も来るべき大規模調査に備えて教員派遣により調査員6名増員となる。
- ◆受託調査10件・調査員派遣調査26件。
- ◆高速道路関連遺跡の発掘調査が本格化。
- ◆国道バイパスとなるあけぼの道路関連遺跡の発掘調査が開始される。



あけぼの道路 小籠遺跡の現地説明会



長畝古墳群

- ★柳田遺跡の調査成果を遺跡の上に建設されたフジグランで展示。
- ★古代学協会四国支部大会、中・四国旧石器文化談話会等の研究会も高知県を開催地として行うことができ、今後の発掘調査と考古学研究の進展が期待された。

平成7年度

- 事務職員1名と教員派遣による調査員1名が増員され、体制の強化が行われた。
- ◆受託調査14件・調査員派遣調査21件。
- ◆松ノ木遺跡では昨年度に引き続き多量の縄文土器が出土し、縄文時代後期の良好な一括資料として土器編年の基準となる。
- ◆あけぼの道路関連遺跡では、太平洋戦争時の砲弾が多数発見されるなど戦争考古学の分野に調査が広がった。
- ★全国埋蔵文化財センター法人連絡協議会研修会と織豊期城郭研究会が行われた。
- ★開設5年目である本年度から外部講師による年間2回の職員専門研修が開始された。



松ノ木遺跡の縄文土器



職員専門研修開始

平成8年度

- 高知空港拡張等の大規模調査に合わせて、新規採用による財団専門職員5名と教員派遣4名の合計9名の調査員が増員された。
- 高知空港及び土佐市バイパス事業開始のため現地に調査事務所が開設され、整理作業まで一貫して行う体制となった。
- ◆受託調査20件・調査員派遣調査13件。
- ◆奥谷南遺跡ではナイフ形石器・細石刃が層位的に検出され、縄文時代草創期の遺物も出土するなど多大な成果が上げられた。



高知空港発掘調査事務所



光永・岡ノ下遺跡の湖州鏡



田村遺跡群の竪穴住居跡

- ◆田村遺跡群では予想以上の竪穴住居跡が検出され、今後の調査が期待された。
- ◆土佐市バイパスでは県内初の湖州鏡が発見される。

- 教員派遣2名が増員され、最大人員となった。
- ◆受託調査14件・調査員派遣調査8件。
- ◆空港、道路関連の調査は最盛期を迎え、年間を通じて発掘が行われる。また、居徳遺跡群にも発掘調査事務所が置かれた。
- ◆天崎遺跡では銅矛4本が出土し、注目された。
- ★市町村の調査体制強化のため、県教育委員会の依頼により市町村



天崎遺跡の銅矛



市町村職員埋蔵文化財調査研修参加者

職員を対象とした埋蔵文化財調査研修
が開始された。

★発掘調査・整理作業の基準化のために
調査マニュアルが刊行された。

★中・四国縄文研究会等が開催された。

- 教員派遣調査員の異動はあったが、人員は昨年度と同じである。
- 調査面積も最大となり緊急調査の山場を迎える。
- ◆受託調査20件・調査員派遣調査8件。
- ◆居徳遺跡群では縄文時代晩期の木胎漆器や土偶、鍬などが出土し、全国的にも注目された。
- ◆田村遺跡群の調査はピークを迎え年間5万㎡を発掘。
- ★郵政省の寄付金により情報管理システムが導入される。
- ★古代学協会四国支部大会等の研究会が行われる。



居徳遺跡群の鍬



田村遺跡群弥生集落



遺跡見学

平成
11
年度



出前考古学教室

事業として南国市の小中学校を対象に「出前考古学教室」が初の試みとして行われ、好評を得た。
★調査成果の展示会が「高知の遺跡速報展」として、高知県立美術館を会場に行われ、入場者も約4千人と大きな反響があった。

- 本年度も教員派遣調査員の異動のみであり、総数変化はなかった。
- ◆受託調査23件・調査員派遣調査10件。
- ◆受託事業による調査はピークを過ぎ、調査面積も半減したが、その分市町村への派遣調査が再び増加した。
- ★本年度から広報普及活動の強化を図るため、新規



高知の遺跡速報展

平成
12
年度

- 大規模調査終了時期を迎え、設立以来、初めての調査員1名減少となった。
- 本年度から念願であった施設の拡充整備が開始され、平成13年度には本館と収蔵庫が完成となる。
- ◆受託調査6件・調査員派遣調査15件。
- ◆発掘調査では国史跡高知城跡の確認調査が行われ、桐紋瓦の出土などが注目された。
- ★昨年度行われた出前考古学教室は、県下の小学校を対象に継続的に実施されることになった。
- ★県立美術館の展示会も「土佐の考古学展」として2回目を行ったところ約8500人の入場を数えた。
- ★高知県立歴史民俗資料館・開館10周年関連企画展「居徳遺跡」を共催。
- ★戦争遺跡保存全国シンポジウム、中・四国旧石器文化談話会が行われた。



建設の進む本館建物



土佐の考古学展

10年の資料

埋蔵文化財センター職員名簿

職名	氏名	期間	職名	氏名	期間
所長	門田 伍朗	2000.4 ~	専門調査員	小嶋 博満	1994.4 ~
次長兼総務課長	島内 信雄	1999.4 ~	専門調査員	泉 幸代	1994.4 ~
主任	山本 三津子	1999.4 ~	主任調査員	藤方 正治	1992.4 ~
主幹	中城 英人	2001.4 ~	主任調査員	曾我 貴行	1991.4 ~
非常勤職員	浅井 慎介	1997.4 ~	臨時職員	西田 佐知子	2001.4 ~
非常勤職員	榊 琴美	1998.4 ~	調査第四班長	廣田 佳久	1991.4 ~
臨時職員	丸岡 宜子	2001.2 ~	専門調査員	田坂 京子	1995.4 ~
調査課長	重森 勝彦	2000.4 ~	専門調査員	岩本 繁樹	2000.4 ~
調査第一班長	山本 哲也	1991.4 ~	主任調査員	中山 真司	2001.4 ~
専門調査員	小島 恵子	1996.4 ~	主任調査員	籠尾 泰輔	2001.4 ~
主任調査員	吉成 承三	1992.4 ~	調査員	田中 涼子	1996.6 ~
調査第二班長	森田 尚宏	1991.4 ~	調査員	下村 裕	1996.6 ~
専門調査員	名木 郁	1998.4 ~	非常勤職員	山本 純代	1998.4 ~
専門調査員	前田 光雄	1991.4 ~	臨時職員	馬場 洋子	2001.11~
専門調査員	浜田 恵子	1995.4 ~	臨時職員	大橋 真弓	2001.6 ~
主任調査員	堅田 至	1997.4 ~	調査第五班長	松田 直則	1991.4 ~
主任調査員	山田 和吉	1997.4 ~	専門調査員	大野 佳代子	1996.4 ~
主任調査員	坂本 憲昭	1991.4 ~	主任調査員	松村 信博	1992.4 ~
調査員	小野 由香	1996.6 ~	主任調査員	今田 充	2001.4 ~
臨時職員	三谷 実岐	2001.4 ~	主任調査員	池澤 俊幸	1993.4 ~
調査第三班長	出原 恵三	1993.4 ~	調査員	久家 隆芳	1996.6 ~
専門調査員	大森 秀男	2001.4 ~	調査員	筒井 三菜	1996.6 ~
専門調査員	佐竹 寛	1994.4 ~			

移動等職員名簿

職名	氏名	在職期間	職名	氏名	在職期間
所長(専務兼務)	小橋 一民	1991.4 ~ 1993.3	主任調査員	江戸 秀輝	1991.4 ~ 2001.3
所長	原 雅彦	1993.4 ~ 1996.3	主任調査員	門脇 隆	1992.4 ~ 1993.3
所長	古谷 碩志	1996.4 ~ 1999.3	調査員	寺川 嗣	1992.4 ~ 1993.3
所長	川崎 正幸	1999.4 ~ 2000.3	主任調査員	山崎 正明	1992.4 ~ 1998.3
事業課長	山崎 浩	1991.4 ~ 1993.3	主任調査員	伊藤 強	1994.4 ~ 2001.3
総務課長	山崎 明彦	1993.4 ~ 1993.5	専門調査員	宮地 早苗	1994.4 ~ 1998.3
総務課長	井上 幸雄	1993.7 ~ 1995.3	主任調査員	田上 浩	1994.4 ~ 1996.3
総務課長	田岡 秀夫	1995.4 ~ 1997.3	専門調査員	三橋 麻里	1996.4 ~ 1999.3
次長兼総務課長	津野 州夫	1997.4 ~ 1999.3	専門調査員	山本 雄介	1996.4 ~ 2000.3
主幹	三浦 康寛	1991.4 ~ 1995.3	調査員	坂本 裕一	1996.4 ~ 2001.3
主幹	吉岡 利一	1995.4 ~ 1998.3	主任調査員	畠中 宏一	1998.4 ~ 2000.3
主任	大原 裕幸	1998.4 ~ 2001.3	専門調査員	高橋 厚彦	1999.4 ~ 2001.3
主幹	石川 馨	1995.4 ~ 1999.3	非常勤職員	西岡 禎子	1993.4 ~ 1995.3
調査課長	明神 睦起	1993.4 ~ 1995.3	非常勤職員	武吉 眞裕	1993.9 ~ 1999.3
調査課長	岩崎 嘉郎	1995.4 ~ 1997.7	非常勤職員	竹村 三菜	1993.9 ~ 1996.3
調査課長	西川 裕	1997.8 ~ 2000.3	非常勤職員	行藤 たけし	1996.4 ~ 1997.3
調査員	中山 康弘	1991.4 ~ 1992.3	非常勤職員	松田 重治	1997.4 ~ 1998.3
調査員	近森 康子	1991.4 ~ 1994.3	非常勤職員	川端 清司	1997.4 ~ 2000.4

主要発掘調査一覧1 [1991 → 1996年]

調査略号	遺跡名	所在地	時期	種別
91- 1GN	具同中山遺跡群	中村市具同	古墳・中世	祭祀・集落
91- 4ON	扇城跡	中村市具同	中世	城跡
91- 10YSY	須江上段遺跡(ヨコキ地区)	土佐山田町須江	古代	散布地
91- 13HD	稗地遺跡	香我美町稗地	弥生	集落
91- 14M	十万遺跡	香我美町十万	弥生	集落
91- 16FY	今成遺跡	十和村今成	縄文	散布地
91- 17TC	チシ古城跡	中村市実崎	中世	城跡
91- 22YMS	須江上段遺跡(松の本地区)	土佐山田町須江	古代	散布地
91- 27KJ	秦泉寺廃寺跡	高知市中秦泉寺	古代	寺院
91- 31NY	能茶山窯跡	高知市鴨部	近世	窯跡
91- 32HB	王子・西ノ芝遺跡	春野町弘岡	古墳・中世	散布地
92- 1KY	柳田遺跡	高知市朝倉	縄文～古墳	集落
92- 5HM	南浦遺跡	春野町東諸木	弥生～中世	散布地
92- 10NSM	ハナノシロ城跡	中村市江ノ村	中世	城跡
92- 11NSE	江ノ古城跡	中村市江ノ村	中世	城跡
92- 12NSN	西ノ谷遺跡	中村市江ノ村	弥生・古墳	散布地
92- 14NK	金地遺跡	南国市金地	弥生・古墳	集落
92- 16KJ	秦泉寺廃寺跡	高知市中秦泉寺	古代	寺院
92- 21KM	峰ノ上遺跡	窪川町峰ノ上	縄文・中世	散布地
92- 33KN	国見遺跡	中村市国見	縄文	散布地
92- 34SE	栄工田遺跡	南国市岡豊町	縄文	散布地
93- 1NF	船戸遺跡	中村市森沢	縄文～中世	祭祀・集落
93- 3SE	栄工田遺跡	南国市岡豊町	縄文	散布地
93- 5NK	金地遺跡	南国市金地	弥生・古墳	集落
93- 13KJ	秦泉寺廃寺跡	高知市中秦泉寺	古代	寺院
93- 17UC	浦戸城跡	高知市浦戸	中世	城跡
93- 18NN	長畝遺跡	南国市岡豊町	弥生・古墳	土坑墓
93- 18KH	尾立遺跡	高知市尾立	弥生	集落
93- 20TZ	下分遠崎遺跡	香我美町下分	弥生	集落
94- 1GN	具同中山遺跡群	中村市具同	古墳・中世	祭祀・集落
94- 2FK	福井遺跡	高知市福井	弥生	集落
94- 3NN	長畝3号墳	南国市岡豊町	古墳	墳墓
94- 4NOM	奥谷南遺跡	南国市岡豊町	縄文～近世	集落
94- 12SI・SK	池ノ上・楠山遺跡	宿毛市橋上町楠山	旧石器・縄文	散布地
94- 13KC	高知城跡(御台所屋敷跡)	高知市丸ノ内	近世	城郭
94- 14RNK	小籠遺跡	南国市岡豊町小籠	弥生～近世	集落
95- 1GN	具同中山遺跡群 - 1	中村市具同	弥生～古代	祭祀・散布地
95- 2RNK	小籠遺跡	南国市岡豊町小籠	弥生～近世	集落
95- 6NOM	奥谷南遺跡	南国市岡豊町	縄文～近世	集落
95- 7RNS	下末松遺跡	南国市下末松	近世	散布地
95- 8SK	楠山遺跡	宿毛市橋上町楠山	旧石器・縄文	散布地
95- 18YY	三ツ又遺跡	土佐山田町中組	近世	集落
95- 17RNJ	陣山遺跡	南国市陣山	近世	散布地
95- 34HS	飛田坂本遺跡	須崎市神田	縄文～中世	散布地
95- 34HIB	八田神母谷遺跡	伊野町八田	縄文～中世	散布地
96- 1GN	具同中山遺跡群 - 1	中村市具同	古墳	祭祀
96- 2RNJ	陣山遺跡	南国市陣山	中世・近世	散布地
96- 3RNG	五反地遺跡	南国市上末松	古代～近世	散布地
96- 4TI	光永・岡ノ下遺跡	土佐市高岡町	古墳～中世	集落
96- 5TT	天神遺跡	土佐市高岡町	古代・中世	集落
96- 6TH	林口遺跡	土佐市高岡町	弥生～近世	集落

調査略号は試掘調査、市町村調査分を掲載していないため連番ではない。

主要発掘調査一覧2 [1996 → 2001年]

調査略号	遺跡名	所在地	時期	種別
96- 7NOM	奥谷南遺跡	南国市岡豊町	旧石器・縄文	岩陰
96- 9NT	田村遺跡群	南国市田村	弥生	集落
96- 10KK	介良遺跡	高知市介良	弥生～中世	散布地
96- 11HI	八田神母谷遺跡	伊野町八田	縄文～中世	散布地
96- 12HN	八田奈路遺跡	伊野町八田	弥生～近世	集落
96- 2SHS	飛田坂本遺跡	須崎市神田飛田	縄文～中世	集落
97- 1NT	田村遺跡群	南国市田村	弥生	集落
97- 2NH	間城跡	中村市江ノ村	中世	城跡
97- 3GN	具同中山遺跡群	中村市具同	縄文～近世	祭祀・集落
97- 4FI	光永・岡ノ下遺跡	土佐市高岡町	中世	集落
97- 5GT	天神遺跡	土佐市高岡町	弥生～中世	集落
97- 7GA	天崎遺跡	土佐市高岡町	弥生～中世	散布地
97- 8T	居徳遺跡群	土佐市高岡町	縄文～古墳	散布地
97- 12HN	八田奈路遺跡	伊野町八田	弥生～近世	集落
97- 17ON	西本城跡	大方町上田ノ口	中世	城跡
97- 2SHS	飛田坂本遺跡	須崎市神田飛田	縄文～中世	集落
98- 1NT	田村遺跡群	南国市田村	弥生	集落
98- 2K	神ヶ谷窯跡	宿毛市平田	古代	窯跡
98- 3GN	具同中山遺跡群	中村市具同	古墳	祭祀
98- 4FK	北地・アリノ木遺跡	土佐市北原	弥生～近世	散布地
98- 5GT	天神遺跡	土佐市高岡町	縄文～中世	集落
98- 6GH	林口遺跡	土佐市高岡町	縄文～中世	集落
98- 7GN	西鴨地遺跡	土佐市西鴨地	古代・中世	集落
98- 8T	居徳遺跡群	土佐市高岡町	縄文～古墳	祭祀・集落
98- 11RNK	小籠北遺跡	南国市小籠	中世～近世	散布地
98- 13KT	北高田遺跡	土佐市高岡町	弥生	集落
98- 15NA	浅村遺跡	中村市森沢	弥生	祭祀
98- 23NS	里改田遺跡	南国市里改田	弥生～近世	散布地
99- 1NT	田村遺跡群	南国市田村	弥生	集落
99- 4HK	蓮池城跡北面遺跡	土佐市高岡町	中世～近世	集落
99- 6GH	林口遺跡	土佐市高岡町	中世～近世	城跡・散布地
99- 11GNS	具同中山遺跡群 - 2	中村市具同	古墳	祭祀
99- 15YH	林田遺跡	土佐山田町林田	弥生～中世	集落
99- 23NS	里改田遺跡	南国市里改田	弥生～近世	集落
00- 1NT	田村遺跡群	南国市田村	弥生	集落
00- 2KC	高知城跡	高知市丸ノ内	近世	城郭
00- 3GN	具同中山遺跡群 - 3	中村市具同	弥生～古代	集落
00- 4NH	久木ノ城跡	中村市上ノ土居	中世	城跡
00- 5GN	野田遺跡	土佐市高岡町	中世	集落
00- 8GH	林田遺跡	土佐山田町林田	弥生～中世	集落
00- 10FK	京間遺跡	土佐市京間	中世・近世	集落
01- 1NT	田村遺跡群	南国市田村	弥生	集落
01- 2FK	京間遺跡	土佐市京間	中世・近世	集落
01- 3GN	野田遺跡	土佐市高岡町	中世	集落
01- 4NK	古津賀遺跡群	中村市古津賀	古墳	祭祀
01- 5GN	具同中山遺跡群 - 2	中村市具同	古墳	祭祀
01- 7KK	高知城跡	高知市丸ノ内	近世	城跡
01- 9NOC	岡豊城跡	南国市岡豊	中世・近世	城跡
01- 10KS	高知城伝下屋敷	高知市丸ノ内	近世	城跡
01- 12HH	東江曲遺跡	春野町弘岡下	弥生	集落
01- 21HH	西分増井遺跡群	春野町西分	弥生・古墳	集落
01- 23AY	勇前遺跡	安芸市川北	弥生	集落

高知県埋蔵文化財センター報告書刊行一覧

集番号	報告書名	発行年度	集番号	報告書名	発行年度
第1集	具同中山遺跡群(後川・中筋川河川改修)	平成3年度	第38集	八田奈呂遺跡(四国横断自動車道)	平成10年度
第2集	鹿持雅澄邸跡	平成3年度	第39集	天崎遺跡(四国横断自動車道)	平成10年度
第3集	扇城跡	平成3年度	第40集	小籠北遺跡	平成10年度
第4集	十万遺跡	平成3年度	第4集	福井遺跡(四国横断自動車道)	平成10年度
第5集	チシ古城跡	平成3年度	第42集	浅村遺跡(中村宿毛道路)	平成11年度
第6集	岡豊城跡	平成3年度	第43集	辺路石南遺跡・五反地遺跡	平成11年度
第7集	ひびのきサウジ遺跡	平成3年度	第44集	里改田遺跡 杉ノ本地区-	平成11年度
第8集	王子・西ノ芝遺跡(春野バイパス)	平成3年度	第45集	里改田遺跡-室ノ内・岩路地区-	平成11年度
第9集	須江上段遺跡 松の本地区	平成3年度	第46集	具同中山遺跡群-1(中村宿毛道路)	平成11年度
第10集	須江上段遺跡 ヨコキ地区	平成3年度	第47集	奥谷南遺跡(四国横断自動車道)	平成11年度
第11集	稗地遺跡	平成4年度	第48集	具同中山遺跡群-1(中村宿毛道路)	平成11年度
第12集	南浦遺跡	平成4年度	第49集	間城跡(中村宿毛道路)	平成11年度
第13集	江ノ古・ハナノシロ城跡・西ノ谷遺跡(中村宿毛道路)	平成4年度	第50集	北高田遺跡(四国横断自動車道XI)	平成11年度
第14集	金地遺跡	平成4年度	第51集	八田奈呂遺跡(四国横断自動車道XII)	平成11年度
第15集	峰の上遺跡	平成4年度	第52集	北地・アリノ木遺跡(四国横断自動車道XIII)	平成11年度
第16集	下分遠崎遺跡	平成5年度	第53集	具同中山遺跡群-2(中村宿毛道路)	平成12年度
第17集	柳田遺跡	平成5年度	第54集	神ヶ谷窯跡・サンナミ遺跡(中村宿毛道路)	平成12年度
第18集	秦泉寺廃寺	平成5年度	第55集	光岡・岡ノ下遺跡(土佐市バイパス)	平成12年度
第19集	浦戸城跡	平成6年度	第56集	具同中山遺跡群-2(県道)	平成12年度
第20集	小籠遺跡	平成6年度	第57集	天神遺跡・林口遺跡(土佐市バイパス)	平成12年度
第21集	高知城跡	平成6年度	第58集	具同中山遺跡群(県道)	平成12年度
第22集	栄工田遺跡(四国横断自動車道)	平成6年度	第59集	具同中山遺跡群(県道)	平成12年度
第23集	尾立遺跡(四国横断自動車道)	平成6年度	第60集	天神遺跡(土佐市バイパス)	平成12年度
第24集	小籠遺跡	平成7年度	第61集	西鴨地遺跡(四国横断自動車道XIV)	平成12年度
第25集	長畝古墳群(四国横断自動車道)	平成7年度	第62集	居徳遺跡群(四国横断自動車道XV)	平成12年度
第26集	須崎道路確認調査	平成7年度	第63集	奥谷南遺跡(四国横断自動車道)	平成13年度
第27集	船戸遺跡(中村宿毛道路)	平成7年度	第64集	林口遺跡・蓮池城跡北面遺跡(土佐市バイパス)	平成13年度
第28集	具同中山遺跡群(中村宿毛道路)	平成8年度	第65集	具同・中山遺跡群-2	平成13年度
第29集	小籠遺跡	平成8年度	第66集	居徳遺跡群	平成13年度
第30集	介良遺跡	平成8年度	第67集	中屋敷遺跡	平成13年度
第31集	陣山遺跡・陣山北三区遺跡	平成9年度	第68集	北川内遺跡	平成13年度
第32集	八田神母谷遺跡(四国横断自動車道)	平成9年度	第69集	居徳遺跡群	平成13年度
第33集	山田三ツ又遺跡	平成9年度	第70集	具同・中山遺跡群-3	平成13年度
第34集	里改田遺跡試掘調査報告書	平成9年度	第71集	林田遺跡	平成13年度
第35集	飛田坂本遺跡(四国横断自動車道)	平成9年度	第72集	田村遺跡群緑の広場調査報告書	平成13年度
第36集	西本城跡	平成10年度	第73集	野田遺跡(土佐市バイパス)	平成13年度
第37集	奥谷南遺跡(四国横断自動車道)	平成10年度			

高知県遺跡年表

区分	時代	年代	高知県の遺跡	日本を代表する遺跡・出来事
原 始	旧石器	約2～3万年前 13,000年前	楠山遺跡・池ノ上遺跡（宿毛市） 新改西谷遺跡（土佐山田町） 奥谷南遺跡（南国市）	岩宿遺跡（群馬） 最初に旧石器を発見
	縄文	5,000年前 3,500年前	不動ヶ岩屋洞窟遺跡（佐川町） 十川駄場崎遺跡（十和村） 大宮・宮崎遺跡（西土佐村） 松ノ木遺跡（本山町） 船戸遺跡（中村市） 居徳遺跡群（土佐市）	上黒岩岩陰遺跡（愛媛） 上野原遺跡（鹿児島） 三内丸山遺跡（青森） 縄文時代の拠点集落 亀ヶ岡遺跡（青森） 菜畑遺跡（佐賀） 水田跡発見
	弥生	2500年前 2000年前	入田遺跡（中村市） 田村遺跡群（南国市） 下分東崎遺跡（香我美町） 天崎遺跡（土佐市） 龍河洞洞穴遺跡（土佐山田町） パーガ森北斜面遺跡（伊野町） 清水寺岡遺跡（安芸市） 西分増井遺跡（春野町）	板付遺跡（福岡） 池上曾根遺跡（大阪） 加茂岩倉遺跡（島根） 銅鐸多量に出土 妻木晩田遺跡（鳥取） 登呂遺跡（静岡） 纏向遺跡（奈良）
古 代	古墳	1800年前	高岡山古墳群（宿毛市） 具同中山遺跡群（中村市） 古津賀遺跡群（中村市） 長畝古墳（南国市） 伏原大塚古墳（土佐山田町）	この頃卑弥呼が魏に使いを送る 箸墓古墳（奈良） 大山古墳（伝仁徳天皇陵 大阪） 藤ノ木古墳（奈良）
	飛鳥	1400年前	神ヶ谷竊跡（宿毛市） 秦泉寺廃寺跡（高知市） 比江廃寺塔跡（南国市） 土佐国府跡（南国市）	大化の改新 高松塚古墳（奈良） 飛鳥池遺跡（奈良） 飛鳥水落遺跡（奈良）
	奈良	1300年前	土佐国分寺跡（南国市） コゴロク廃寺跡（奈半利町）	平城京 多賀城跡（宮城）
	平安	1200年前	土佐国衙跡（南国市） 下ノ坪遺跡（野市町）	平安京 紀貫之が土佐国司になる
中 世	鎌倉	800年前	林口遺跡（土佐市）	鎌倉幕府 草戸千軒町遺跡（広島）
	室町	700年前	木塚城跡（春野町） 田村城館跡（南国市） 姫野々城跡（葉山村） ハナノシロ城跡（中村市）	室町幕府 細川氏が土佐守護代になる 応仁の乱
近 世	桃安土		岡豊城跡（南国市） 浦戸城跡（高知市）	長宗我部氏土佐統一
	江戸	400年前	高知城跡（高知市） 鹿持雅澄邸跡（高知市）	江戸幕府
近現代	昭和 大正 明治	55年前	掩体・陣山遺跡（南国市）	明治維新 第二次世界大戦

高知県立埋蔵文化財センター —10年のあゆみと発掘調査—

編集・発行 / (財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター 印刷 / (有)西村謄写堂 発行日 / 平成13年12月